

てんか び し これ び な これあく ぜん し  
天下みな美を知りて之を美と為すも、すでに斯悪なり。善を知り  
これ ぜん な これふぜん ゆえ う むあいしよう なんい  
て之を善と為すも、すでに斯不善なり。故に有無相生じ、難易  
あいな ちようたんあいあら こうげあいかたむ おんせいあいわ ぜんごあいしたが  
相成り、長短相形われ、高下相傾き、音声相和し、前後相隨  
ここ もつ せいじん こと お ふげん きよう おこな ばんぶつここ  
う。是を以て聖人は、無為の事に処り、不言の教を行う。万物焉  
おこ ことば しょう しよう ゆう な たの こうな お  
に作るも辞せず。生ずるも有とせず、為すも恃まず。功成るも居  
そ ただお これ もつ さ  
らず。夫れ唯居らず、是を以て去らず。

【大体の意味内容】天下の人々はみな、美を直感的に知る感性はあるが、それを「美」として

表現すると、同時にその醜い面もあぶりだしてしまう。善を直感的に知っても、それを「善」

として表現すると、同時にその善くない面まで知った気になる。万事このように、言葉は二項

対立を生み出す。有ると無いとは同時に発生し、難しいと易しいも、ともに成り立ち、長所

と短所も不可分に形成される。高いと低いによって傾斜が認められ、楽器の音と人の声とで

調和が奏でられる。前や後も相手によって順序付けられる。こうして物事を二つに分けて知

るということは、とても便利だが、最初の「本質的直感」からは、実はどんどん遠ざかってゆ

くものなのだ。こういうわけで、「道」の原理に生きようとする聖人は、賢しらに分析的な知を

振り回すことはしないという「無為」を自分の根拠とする。また自分の頭がよいように見せか

けるためにベラベラしゃべりまくる、などということはない「不言の教」を行う。森羅万象

盛んにその相を顕わしても、言葉で説明しようとせず、何かを生み出してもそれを自分の所有

とはしない。何か成し遂げても、その栄光を恃んで他人に自分を尊敬させようなどとせず、成功

してもその立場に安住したりはしない。そもそもどのようなことについても、その場に「安住」

などしようとしなさい。私たちの存在そんざい世界せかい自体が、常に変化へんかし続けつづているのだから、自分も変化へんかし続けつづているほうが、かえってこの世界せかいから去さることなく生き抜ぬくことができるのだ。

「無為自然むゐぜんぜん」という有名な言葉は『老子』から来ています。が、基本的には誤解ごかいされています。「人間はただ念ねんけて何もせず自然の成り行きに任まかせた方がいい。庭の手入れなどせず草花くさなはつぼつとしておけばいい」という、ただただ念ねんけていじやを正当化した考え方と、とらえられています。そこではありません。大宇宙から私たち人間やそのほかの小さなもので、それぞれが互いに関連しあうような原理に沿って生命活動をしています。その働きを邪魔せず、極めて合理的になるように、余計な仕業しごは一切しない、という考え方です。

現在大リーグで活躍中の大谷翔平選手の本ティンクなどは、この「無為自然」がかなりの完成度の高い形で体現されたものといえます。自分の体の自然な動きに任せ、またバットの重さおもさに任せて「落おちていながら、自然な流れで、投げられたボールが落下してくる軌道に沿って救い上げています。腕力・筋力で振るのではなく、道具もぐと身体からだの道理ことわりに合あわせて、むしろ「振られ」ているだけです。こうした自然な動きを支えるために、全身を鍛え上げているわけです。そのため、あのように脱力した、流れるような美しいフォームでの本ティンクとなり、ジャストミートした打球は大リーグトップレベルのスピードを発揮して飛んでゆくのですね。「無為自然」を成し遂とげることには尋常じゆんじやうではない努力と鍛錬たんれんを経へているというわけですね。

なにごとにせよ、「いじやなればいじやか」の答えは、常に自分の中にあります。自分の外にあるマニエールは、単に参考事例に過ぎません。自分という小宇宙こうちゆうがその生きる力を最も発揮できるにはどのような本ティンクをしなければいいか、その本ティンクが最大に働いたためにはどう鍛錬すればいいか、自分で探求し、自分に備わっている道理を発見し、それに合あわせてゆくと。そんな本源的な合理主義で生きてみまわし。